

ようぼく



ようぼくの集い

「ようぼくの集い」が11月15日に開催され、計61人の教友が参加した。

今回の集いでは、8月末に同伝道庁で開催された原典勉強会より、天理大学の東馬場郁生教授による「おふでさき」に関する講義（録画ビデオ）を視聴。その後、言語ごとに小グループに分かれ、ねりあいが行われた。夕づとめ後には、夕食を兼ねた懇親会が開催され、管内の各地区から用意された食事とともに、少年会を中心とした出し物を楽しみながら、懇親を深めた。

天理教アメリカ伝道庁

No.937

DECEMBER

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



— カセットテープ復活 —

師走となりました。今月で本年も1年を終えます。そして、新年の1月26日に教祖140年祭を迎えることとなります。教祖140年祭まで残り1ヵ月強となります今日、それぞれが年祭活動として定めた目標に向かって邁進していただければと思います。

本年1年間、皆様には陽気ぐらし実現の上に、また、アメリカ伝道庁の上にご尽力を賜り、誠に有難うございました。

新年も、本年同様、変わらぬご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

さて、以前(2023年9月号)に「レコード復活」と題して「熟々浅学」を書きましたが、その後「カセットテープ」も復活していることを知りました。つまり、「カセットテープ」も再評価されているという意味です。特にZ世代という若者から「古いもの」として評価を受けているのではなく、「新鮮なもの」として受け入れられているようです。

何故「カセットテープ」が再評価されているのか。レコード復活の時に書きましたように、「アナログ」の音質が「心地よい」ということが理由のようです。

CDや音楽配信での楽曲を聴きますと、確かにクリアなのですが、それはレコードを掛けた時に「プチプチ」などと聴こえる「雑音」を消しているからだと思うのです。つまり、「雑音」の部分である音域の“端”を削除しているからだと思うのです。この“端”を消していることにより、楽曲が澄んで(クリアに)聴こえるのだと思いますが、それは少し「冷たい」という感覚をもたらしているようなのです。つまり、あまりにもクリアに聴こえるために「暖かみ」が消えてしまっているということのようです。

前述したように、レコードを掛けると「プチプ

チ」という音が聴こえますが、それが「心地よい」と現在の若者に受け入れられている部分があるようで、「カセットテープ」も同様な効果があるようなのです。2024年1月のある記事によりますと、カセットテープの購入者は30代を中心に10代から50代までの年齢層だそうです。

私が高校生時に来米した頃は、カセットテープの全盛期でした。アメリカに来る前には、多くの日本の楽曲を録音して、たくさんのカセットテープを持ってきました。もちろん、それらを聴くためにラジカセレコーダー(以下、ラジカセ)も持ってきました。

ある日、タワーレコードを訪れました。その当時、誰が有名で人気な歌手なのかは、ほとんど知りませんでしたので、レジカウンターの後ろの棚にあった1番人気と2番人気のカセットテープを買ったのです。その2本がアメリカで初めて買った楽曲のカセットテープでした。

来米時に知っていたアメリカ人の歌手は、スティビー・ワンダーやカーペンターズで、また、中学3年生の頃に流行っていた「ホテル・カリフォルニア」を歌っていたグループのイーグルスぐらいでしたが、取り敢えず、1番と2番人気のカセットテープであれば外れはないだろうという思いでした。そのような思いで買ったカセットテープ1本がビリー・ジョエルの「ニューヨーク52番街(52nd Street)」だったことを覚えています。もちろん、ビリー・ジョエルの名前も知らず、偶然にも、ビリー・ジョエルのカセットテープを買ったのですが、それ以降、ビリー・ジョエルの楽曲のカセットテープを購入して聴くようになりました。

1本のカセットテープで録音できる時間は、最长で120分だったと思います。レコードと同じ

ように「A面」と「B面」がありますので、120分のテープは片面60分ということになります。

私のラジカセは、自動で「A面」から「B面」へと切り替わるようになっていましたが、当時の簡易なカセットテーププレーヤーの多くは、カセットを取り出して手で裏返す必要がありました。また、ラジカセには「早送り」や「巻き戻し」機能や録音機能がありますが、それらの機能を利用するには、手でスイッチを押す必要がありました。

「早送り」や「巻き戻し」機能も何度も繰り返していると、次第にカセットテープのテープが伸びてしまうことがあり、そうなりますと、楽曲の音程が狂って聴こえたり、音が伸びたような状態になって聴こえたりしていました。また、高温に晒されたり、長時間使用したりすることでテープが傷んで伸びてしまうこともあり、そうなるとそのカセットテープは使えなくなってしまいました。

パソコンなどを使わなければ簡単に録音できないCompact Disc (CD) と違い、カセットテープでは録音が非常に簡単でした。既に述べたように、ラジカセに録音機能さえあれば、誰でも簡単に録音できました。そのため、せっかく録音した楽曲を間違えて上書きしてしまうことがありました。また、簡単に上書きできるので、不必要になった楽曲などを上書きして別の楽曲を録音することも可能でした。楽曲ばかりでなく、誰かの講演の録音も可能でしたので、古い講演録を消す意味を含めて、新しい講演を上書き録音することもできました。

大切な楽曲や講演を間違えて上書きされないようにカセットテープには「ツメ（誤消去防止）」と言われる部分がありました。その「ツメ」を取り除くと録音できないようになっていましたが、取り除いた「ツメ」の部分にセロハンテープを貼り付ければ、再度録音は可能でした。

カセットテープをラジカセで聴いたり録音したりするためには、カセットの出し入れや操作に手作業が伴います。このようなことが「アナログ」と呼ばれる所以でしょう。少々手間がかかり煩わしいこともありますが、Z世代にはその煩雑さが新鮮に映り、それ自体に意味を見出しているようなのです。Z世代にとっては、そのような一連の作業が新鮮で、それらが音楽を聴くための一種のルーティーンや「儀式」になっていて、それも「心地よい」のかもしれませんが。

ファッションにおいて、何世代か前のスタイルが新鮮に映ることがあって、「リバイバル」としてもてはやされることがありますが、カセットテープやラジカセに関しても同様の現象が起きているのでしょう。そのようなこともあり、最近のアメリカの人気歌手もカセットテープで自分の楽曲を販売しているそうです。

カセットテープは、さまざまな会社で生産されていました。日本では、SONY、TDK、MAXELLなどが有名な会社だったと思いますが、現在では、主要なブランドとしてMAXELLを含む複数のメーカーが生産を続けているようです。また、安価な製品が販売されているようですが、カセットテープの基本的な構造自体には大きな「進化」や「変化」は見られません。

しかし、最近販売されているラジカセやカセットプレーヤーにはBluetooth機能が付いていたりと、テープ走行が昔より安定していたりと「進化」しているようです。そして、売り上げが伸びているとのことでした。

カセットテープの復活は、単なる懐古趣味ではなく、手間をかけ、自らの手で一つひとつの作業を行うことの価値が再評価されていることの証なのかもしれません。つまり、人には心地よさや温もりを求める自然な心の動きがあると言えるのかもしれません。そしてそこには、人間に本来備わる「たすけ合いの心」や「面倒を厭わない心」のような感性が映し出されているのではないのでしょうか。

親神様は、私たち人間の成人を望んでおられ、私たちはその御心に沿うよう、日々「心の成人」を目指しています。

「心の成人」は、自動的に与えられるものではありません。先のカセットテープの再生や録音に手作業が必要のように、私たちの信仰生活においても、日々おつとめを勤め、ひのきしんに励み、にをいがけ・おたすけに奔走するといった、一つひとつの丁寧な「手作業」の積み重ねが不可欠です。

このような地道な歩みを通してこそ、私たちは親神様の御心と向き合い、真の喜びと温かさに満ちた陽気ぐらしの世界へと繋げていくことができるのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教188年11月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、約束の年限をお待ちかねになられて、教祖をやしろとしてお付けくださったたすけ一条の道は、年と共に世界に伸び拡がり、教祖のひながたを仰ぎ尊ぶ道の子供たちも増え、この北米の地にも道の伸展をお見せいただき、現在も賜ります厚き親心の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は日夜御礼申し上げ、陽気ぐらし実現に向けて励ませていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の十一月の月次の御祭りを執り行う目出度い日柄に当りますので、只今より、ちばの理を頂戴し、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に勇んで、座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、変らぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、当伝道庁のようぼくの集いを滞りなく開催することができまして、誠に有難うございました。各地より参集しました教友たちが、教祖年祭活動中の勇み心を分かち合う絶好の機会となりましたが、それぞれが土地所に戻りましてからは、更に勇み心を以て、にをいがけ、おたすけに邁進できますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭年祭活動も終盤になりました今日、教祖にお喜びいただけるよう、更なる心の成人を目指して活動を推進し、教祖年祭には管内より大勢のよふぼく、信者が帰参できますよう努めさせていただきます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、届かぬ点、至らぬところは幾重にもお仕込みくださり、世界の人々の心が澄み渡り、思召くださる陽気ぐらしの世の状に一日でも早く立て替りますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

11 月月次祭神殿講話

本愛アトランタ教会長
坂倉 慶治

皆様方には、お道の御用の上に真実の心を込めて日々ご丹精下さっておられる事、誠に ご苦労様でございます。本日は、皆様と共に勇んで 11 月の伝道庁の月次祭をつとめさせていただきました。届きませんがご指名を受けたので、しばらくの間お聞き取りくださいますようお願いいたします。

私はただ今、ジョージア州アトランタで本愛アトランタ教会をお預かりしております。今年は教祖殿で教会設立のお許しを頂いてから 30 年の節目になります。まだまだ、至らない教会ではありますが、アメリカ南部の教会としてがんばっているところです。

いくつかのおさしづの中に、この道と言うは「年限の道」とあるというお言葉があります。この道は立教から今年で 188 年です。今のお道は、結構な姿をお見せいただいておりますが、それは決して一度に出来上がったものではありません。笑われそしられ、あるいは反対され迫害されるなど、艱難苦勞の道すがらを、おやさまのお声一つを頼りに、先輩の先生方が通ってくださった、長い年月の中から、今日の道の姿が生まれてきたのであります。

アトランタ教会の 30 年は、まだまだヨチヨチ歩きの子坊のような存在ですが、千里の道も一歩からのごとく、毎日陽気に笑顔忘れぬように心掛けて歩んでおります。植木でも、どれほど立派な木を植えてみても、水も吸い上げぬような、根なしの状態ではどうにもなりません。また、いま植えたばかりとい



うのは、とても弱々しいものです。だんだんと手入れをしながら、年限かけて育て上げてこそ、見事な庭木になるのであります。このように、長い年限をかけて、育てられ、導かれて、だんだんと親神様の御用に役立つようぼくとなり、教会となっていくのではないかと思います。

こうしたことをお道では「年限の理」と聞かせていただいております。形の上の年限が長いというだけでは無く、そこにどれだけ真実を尽くしてつとめたか、心を込めた年月の積み重ねがあるかが、何よりも大切だと思います。年限の中の心の尽くし方、運び方が将来末代にかけて、良いほうにも、悪いほうにも現れてくると考えると、心して日々の歩みを進めなければならないと思います。

人生の上には、いろいろな身上や事情の姿を見せられることがあります。なんでも親神様の思し召しに添いきろうと、一生懸命につとめているのに、思いがけない苦しみが出てくることもあります。教祖は、これを「ふし」

であると仰せられています。また、「ふしから芽が出る」ということをお教えくださっています。「ふし」を与えられたら、それを生かす努力が人間として成長する為に欠かせません。

大工さんの世界には、「生き節」「死に節」という言葉があります。お道でも「このふしを生き節とさせていただきますために…」とよく使います。柱材の中にある節も、生き節は丈夫で、年限が立つごとに節がつややかに光り、柱の面より盛り上がってきます。死んでいる節は、柱を弱くし、節の部分がだんだんとへこみ、ついにはとれて穴が開いてしまいます。木や竹を考えてみても、節は固いものです。また、節から折れやすいとも言えます。しかし、節があるからこそ、そこから芽が出るのです。

親神様に喜んでいただこうと精一杯の努力を続けていけば、身上や事情の「ふし」を見せられても、決して案じることはないと思わせてもらっています。親神様にもたれ、勇んで歩めば、どのような「ふし」も結構に切り抜けさせていただけると確信しております。そして、この「ふし」からさらに大きな喜びの姿へとお導きいただけるに違いないと思わせていただいています。年限の理を積んでいけば、「ふし」を、大きく飛躍するチャンスと考えられるようになります。

突発的な事故や災難、病気や事情など人生の「ふし」をどう乗り越えていくかは、我々信仰者の腕の見せどころだと思います。どんな時にも喜びの心を持ち、感謝を忘れないということが大切なことだと思っています。たとえ悲しみや苦しみ、困難の中にあっても小さな喜びに目を向けることが肝心です。例えば、子供の笑い声や晴れた日の青空、夕焼けの美しさ、普段の食事、また孫の成長が見れることなど、一瞬でも幸せだなあとささやかな喜びを心に持つことで、親神様はその陽気な心を受け取ってくださり、困難な状況を受

け止めるだけの力を与えてくださるように思っています。

「ありがとう」という感謝の言葉をよく使うこともいいかもしれません。あるおたすけ名人の先生が、「親神様のこの世界は、病気になったことが良かったことだったんだって思える人から治っていく。」というお話をされています。

月日にはにんげんはじめかけたのわ

よふきゆさんがみたいゆへから

おふでさき 14号25

と親神様が仰せられているのですから、「ふし」から芽を出す為にも、私は自分で「今日を陽気に生きる」と決めて日々過ごしています。「ふし」があるからこそ、人生は面白く、強くなると思いますので、次にくる「ふし」も、前向きに受け取ろうと思います。私の直属の本愛大教会は、教祖140年祭に向けての三年千日の活動指針を「今日を陽気に」としています。毎日神殿に貼ってあるポスターを見て、どんな「ふし」が来ても「今日を陽気に」切り抜けようと思います。

もともと「ふし」とは、関節のようなつなぎ目、時節のような変わり目など、一つの段階から次の段階に移り変わる境目という意味を持っています。困難な「ふし」ばかりではなく、積極的な希望のある「ふし」もたくさんあります。お道では、教祖の年祭や、教会の記念祭などがあります。また私たちにとっては、入学、就職、結婚など喜びいっぱいの節目もあります。明治20年に教祖が現し身を隠された時から、10年毎に迎える教祖の年祭は私たちにとって誠に大きな「ふし」であります。日々結構に通らせていただいている中から、教祖の親心を偲び、おかけくださる思し召しを悟って、大きく前進をさせていただくビックチャンスが、教祖の年祭であります。

私も、初めて渡米して今年で50年になり

ました。これは私にとっては大きな節目であります。50年の間にいろいろな「ふし」がありました。1975年に本愛の三代大教会長さんから「お前 アメリカへ行け」と言われて渡米を決断したこと、永住を決めたこと、アメリカ南東部に布教地を求めたこと、教会のお許しを頂いたことなど、節目節目で神様の不思議なお働きを頂いてアトランタに引き寄せられてきたと思うのであります。伝道庁の布教の家を出てから単身で東部に向かった時のことも思い出されます。一応目的地はフロリダと決めておりましたが、I-10を東に進む途中、何度も車の故障に見舞われました。その時は、最終的に動かなくなった所を布教地としようとして心に決めて車を進ませました。ようやくの思いで、何とかフロリダ州ペンサコーラの友人宅までたどり着きました。

三ヶ月後に新婚の妻もペンサコーラに来て、一年後に長男が授かりました。その日その日を必死で過ごしていた私たちの様子を、ペンサコーラで知り合ったあるおばあさんが見てくださり、「こんなフロリダの片田舎では生活が大変だからもっと都会に行きなさい。」と、更に「私の娘がアトランタにいるから、そこを頼って行きなさい。」と言ってくれました。これも私たちにとっては大きな節目でした。この言葉に後押しされ、友人も住む所も何もありませんでした。親子三人で未知の都市アトランタに行くことにしました。そのおばあさんの娘さんも優しい方で、アトランタでリアルターをしていたので、私たちの家を探してくださいました。何のクレジットも無い、無職の私たちは、自分たちでローンを組むことができないので、ローンをそのまま引き継ぐことのできる家を見つけて来てくれました。

もうこれは神様のお導きではないかと思案し、日本の親教会に連絡したら、即そこに決



めろという事になり、家を見る前に「買います。」と返事をしました。それが現在の教会であります。今思い返してみると、よくこんな冒険ができたなと思いますが、親神様が先回りしてお働きくださったお陰で、不思議な巡り合わせをいただき、この場所にお引き寄せいただいたと思います。ローンの引き継ぎの時に分かった事ですが、この家の売主は、キリスト教の牧師さん家族でした。やはりこの家は、神様に縁のある家なんだと嬉しく思ったことを思い出しました。

先ず布教所をアトランタに移転し、その後1995年に教会となりました。教会の建物も、親教会の役員であった大工の棟梁先生をはじめ、私の兄弟も来てくれ、手作りで裏庭に普請することができました。お陰様で教会設立から30年が経ちました。

この節目に何か大きな行事をするというよりも、私は今年の年頭に、大祭月と教祖誕生祭、夏のこどもおぢばがえりに、おぢばへ帰ろうと心を定めました。無事に30年お連れ通りいただいた御礼を込めて、1月大祭は娘の夫が

教会を代表して、4月の御誕生祭は家内と私で、こどもおぢばがえりは娘家族と賑やかに、また先月の大祭には家内と私でおぢばがえりをしました。

来年の教祖 140 年祭には、皆様方も大勢おぢばにお帰りになることと思います。アトラントからも今のところ、我々夫婦、息子夫婦、他に 3 名の方がおぢばがえりをします。更にまだ検討中の人もいます。

皆様と共に心を揃えて、日々を喜びを持って、今生きていることに感謝し、笑顔で 140

年祭を迎えたいと思います。今日も一日素敵な一日だったと思える日を増やしていきたいです。

ご清聴ありがとうございました。



教祖 140 年祭ようぼく一斉活動日

伝道庁管内の複数拠点で「ようぼく一斉活動日」が開催されました。今回で第 5 回目最終回となり、来年 1 月に執り行われる教祖 140 年祭に向けて、より一層勇んだ活動が展開されました。





伝道庁連絡



11 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 国領ロバート 福井陽一
 賛者 小島ブライアン 屋敷ゲーリー
 指図方 木村昌人
 神殿講話 坂倉慶治（日）

おつとめ奉仕者任命

2026年1月18日（日）付で、山本かおりサンマテオ教会長夫人、野町かおり L.A. セントラル教会長夫人がおつとめ奉仕者に任命されます。

お出直し

大西わきえカリフォルニア教会前会長夫人が11月13日午後7時40分に出直されました。享年74歳。葬儀は11月23日午前10時30分よりアメリカ伝道庁にて執り行われました。ご生前中のご功績に厚く御礼申し上げます。

TSA 冬季錬成会

TSA 冬季錬成会は、12月26日（金）～29日（月）の日程で開催します。内容は講話、餅つき、HARP アクティビティー、スキー等です。申込用紙は既に配布されており、伝道庁神殿の後方にも置いてあります。
 申込締切り：12月21日です。

年末年始行事予定

12月26日（金）の遥拝式後、午後12時30分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方は、伝道庁にご連絡下さい。

12月28日（日）は餅つきを行う予定ですので、伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。
 元旦祭は、1月1日（木）午前7時（午前6時40分より開扉・献饌開始）より執り行います。

Two Day Course

2026年3月21～22日の期間で、アメリカ伝道庁とニューヨークセンターにて開催致します。開催には最低4名の参加が必要となります。申込み締め切りは、2026年3月1日です。

修養科英語クラスについて

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせください。

修養科スペイン語クラスについて

来年9月1日から11月27日まで、修養科スペイン

語クラスがおぢばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教会長資格検定講習会について

例年9月27日から、5名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、来年より10月27日から開講することになりました。

全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願い致します。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12月26日までに伝道庁に提出して下さい。

一れつ会特別扶育募集

2026年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切は12月31日です。

教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖140年祭「特別展示」を開催

日程：立教188年12/20・21・25・26

立教189年1/24～27

時間：午前10時～午後3時まで（12/26日は午後1時より、189年1/26日は午後2時30分から午後4時30分まで）

場所：おやさとかた南右第2棟
 天理教ホームページをご確認下さい（日本語のみ）。
<https://www.tenrikyo.org/se140/>

立教 189 年 1 月末教人資格講習会

教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1月23日、24日（従来通り）

開催期間：教人資格講習会

【変更前】1月27日～2月10日 →

【変更後】2月1日～15日

教会長資格検定講習会

【変更前】1月27日～2月16日 →

【変更後】2月1日～21日

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点
 日時：2026年1月28日～2月1日 正午～13時30分
 ※いずれかの日にちに1回出席

- ・ 海外教会長は、1/28の出席になっています。
- ・ 通訳の不必要な海外教会長で1/28以外に直属としての割り当てがあれば、その日でも出席可能です。その場合、各々より直属教会に変更を願ひ出て下さい。

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おぢばがえり団参券とは別に、2025年9月1

日～2026年1月31日までの期間、8人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おちばがえり団参券の新区間について

教祖140年祭に向けた特別措置として、2025年9月1日～2026年1月31日までの期間、JR団参券に「京都・天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のことを学びたい方は、以下のURLをご参照下さい。

『入試情報サイト』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>

『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>

『日本学科留学生<国外在住>選抜入試概要』

https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/

入学課：Tel +81-743-62-2164, Fax +81-743-63-7368

E-mail, nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

立教189年1月と4月の別席に関して

教祖140年祭前後の1月や御誕生祭前後の4月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

年祭当日事情おはこび

1月26日に事情のおはこびをお選び下さる予定です。

立教189年1月基礎講座（外国語）について

立教189年1月24日（午前）、25日、27日は、以下の予定で開催されます。申込締切は1週間前までとなっています。

・場 所：おやさとやかた南右第2棟

・受講対象：15歳以上

・受講御供：500円

・受講受付：海外人材育成委員 TEL: 0743-63-2421

・開催日程及び言語：

24日午前 英語・中国語

25日午前 英語・韓国語

25日午後 中国語・タイ語

27日午前 英語・韓国語

27日午後 中国語・ポルトガル語

布教部と海外部のHP（Website）に掲載予定です。問い合わせは海外人材育成委員会までお願いします。

通訳について

年祭当日の通訳言語は、英語、中国語（北京語、広東語）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、タイ語、ネパール語、モンゴル語の予定です。

外国語の神殿案内、をびや許し、お守り、お誓いの通訳は、3日前までに翻訳課受付に申し込んで下さい。

立教189年1月25日-26日の教庁部署に関して

立教189年1月25日と26日の教庁の部署は、教務課（夕方のみ）、教庁管理室、室務課、宗教法人課のみが開いています。その他の部署は閉まります。

各会連絡

布教委員会

・教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に3月までの当番をお知らせ致します。尚、来年1月の月次祭当番はありません。

2月：福井陽一、武本エディ

3月：浜田准一、小島ブライアン

・来年1月25日の回廊ひのきしんはありません。

・来年2月14日（土）の午後、教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会を開催致します。深谷庁長より、「おふでさきにみる日々の心構え」について講義を頂きます。講義に続き、練り合いを計画しております。詳細については、後日メールにて連絡致します。

教化育成委員会

・おやさと練成会事前講習12月28日（日）～12月30日（火）6名が参加します。開講式は午前8時30分です。TSA冬季練成会に参加し、その後、事前講習開始日から参加して頂けます。

広報委員会

・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々への活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：川上 kamishuyo@hotmail.com
林 takhayashi@gmail.com

- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、また常にアップデートを努めております。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。
- ・伝道庁ホームページのドメインネームは、TenrikyoAmericaCanada.orgに変更されております。

Future Path 委員会

- ・育成プログラムに関するアンケートの受付を終了しました。計50名の方がアンケートに答えてくださいました。これから来月にかけて、結果を共有させていただきます。

婦人会

- ・天理教婦人会第108回総会
総ての会員がおちばへ人を誘っておちばへ—別席者とともに—
2026年4月19日(日)
式典：午前9時30分 於：本部中庭
記念行事：・講演会 4月18日(土)午後5時
会場：第二食堂、東講堂、
東右第一棟4階講堂、
東左第五棟4階講堂
・支部の集い 式典終了後
- ・地区責任者の集い
2026年1月17日(土) Zoom
- ・アメリカ婦人会総会
2026年5月16日(土) 午前10時

記念行事：Family BBQ

- ・弓削ジュリアさん—アメリカ婦人会女子青年委員長として、来年からさらに2年おつとめ下さいます。

少年会

- ・子どもおちばがえりのテーマソングが新しくなりました。タイトルは「みちのこ キラリ。」鼓笛隊の皆さんは練習を始めてください。音源、動画はこちらからご視聴いただけます。
<https://tenrikyo-shonenkai.org/kogsong/>
- ・来年8月の少年会おつとめまなび総会に向けて、各教会、布教所、出張所、及び各家庭にて、おつとめの練習をしましょう。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。

青年会

- ・インターナショナルひのきしん隊
2026年7月18～24日
案内を今月配布させていただきます。是非お声をかけていただき、興味のある方がおられましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。
seinenkainorthamerica@gmail.com

NYセンター

- ・1/16 文化協会新年会

成人の節目、教祖140年祭に向けて

～ サクラメント地区～

12月7日、サクラメント地区在住の教友有志は、同地区で開催された、第42回カリフォルニア国際マラソンのボランティアとしてひのきしんを行いました。フェンスに広告バナーを設置し、テーブルにランナーのためのバナナやプロテインバー、紙コップ入りの水を並べるなどの作業をお手伝いし、イベントを支える貴重な役割を果たしました。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.